



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

- 縦枠の躯体取付けねじは、必ずすべての穴位置に止めてください。枠の固定が不十分な場合、扉が脱落するおそれがあります。
- 丁番固定用ねじは、ガタツキがないように固定してください。固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは扉の脱落の原因となります。

■取付け上のおお願い

- 造作材・建具枠の下地材は、必ず乾燥材(含水率20%以下)を使用してください。湿潤材は使用しないでください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから施工してください。
- 枠の組立て後、ねじれ・引張りなど無理な力を加えないでください。破損するおそれがあります。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。かい木は、合板などの乾燥材を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付ドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれる場合があります。
- 本製品の組立て・施工時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 枠取付けの際、水準器・下げ振りなどで水平・垂直が出ているか確認した後、取付けてください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」又はノンホルムタイプを使用してください。
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、施工前にお買求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 本製品の運搬・加工の際は、キズ付けないよう丁寧に取扱ってください。又、水・直射日光の当たる場所に開梱状態で置かないでください。(ソリ・ねじれの原因になります。)

※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、施工完了後に吊込むことをおすすめします。

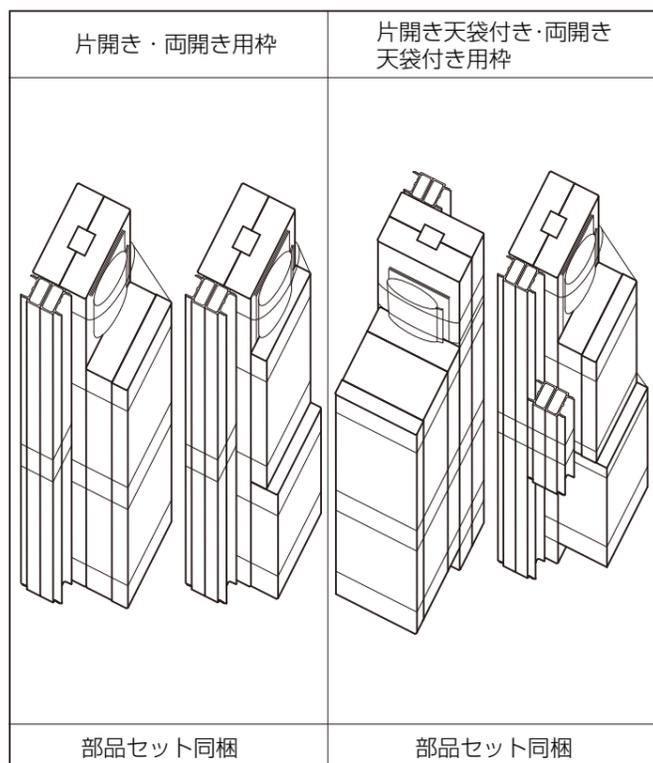
■部品・部材の明細

片開き	片開き天袋(特注)	両開き	両開き天袋(特注)
本体1枚梱包	本体1枚梱包 天袋1枚梱包	本体2枚梱包	本体2枚梱包 天袋2枚梱包
把手・丁番同梱			

■本体用部品セット (把手・丁番セット)

内容	扉1枚当たり
把手	1個
トラス小ねじM4×20	2本
平座金4.5×10×0.5	2個
丁番	2枚
皿小ねじM4×10	6本
皿木ねじ2.7×16	6本

※把手・丁番セットは本体に同梱されています。



	枠					
	上枠	下枠	縦枠	中鴨居	縦枠戸当り	天袋縦戸当り
片開き	1	1	2	-	2	-
片開き天袋付き	1	1	2	1	2	2
両開き	1	1	2	-	2	-
両開き天袋付き	1	1	2	1	2	2

■枠用部品セット

〔片開き用枠部品セット〕

組立てねじ皿小ねじM4×50	8本
縦枠取付ねじDN65φ3.8×65	12本
上枠取付ねじ 頭色付皿タッピングφ4×50	3本
マグネットキャッチ	2個
丸木ねじφ3.1×13	4本
取付説明書	1枚

〔両開き用枠部品セット〕

組立てねじ皿小ねじM4×50	8本
縦枠取付ねじDN65φ3.8×65	12本
上枠取付ねじ 頭色付皿タッピングφ4×50	5本
マグネットキャッチ	4個
丸木ねじφ3.1×13	8本
取付説明書	1枚

〔片開き(天袋付)用枠部品セット〕

組立てねじ皿小ねじM4×50	16本
縦枠取付ねじDN65φ3.8×65	24本
上枠取付ねじ 頭色付皿タッピングφ4×50	6本
マグネットキャッチ	4個
丸木ねじφ3.1×13	8本
取付説明書	1枚

〔両開き(天袋付)用枠部品セット〕

組立てねじ皿小ねじM4×50	16本
縦枠取付ねじDN65φ3.8×65	24本
上枠取付ねじ 頭色付皿タッピングφ4×50	10本
マグネットキャッチ	8個
丸木ねじφ3.1×13	16本
取付説明書	1枚

●マグネットキャッチは1個余ります。

●マグネットキャッチは2個余ります。

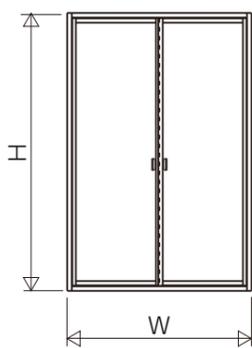
■製品寸法表

●製品寸法表を参考にして開口部を作成します。

※開口寸法は下記寸法で作成願います。

開口(H)方向:(H)+5mm 開口(W)方向:(W)+10mm

■枠寸法



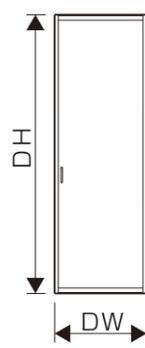
〔在来用〕

呼称	W	H
片開き、両開き	0718	1838
//	0720	2038
片開き天袋付き	0722	2238
両開き	1218	1838
//	1220	2038
両開き天袋付き	1222	2238

〔2×4用〕

呼称	W	H
両開き	1120	1993

■本体寸法



〔在来用〕

(単位mm)

呼称	DW	DH
片開き	0718	1790
//	0720	1990
片開き天袋	0704	342
両開き	0718	1790
//	0720	1990
//	1218	1790
//	1220	1990
両開き天袋	1204	342

〔2×4用〕

(単位mm)

呼称	DW	DH
両開き	1120	1945

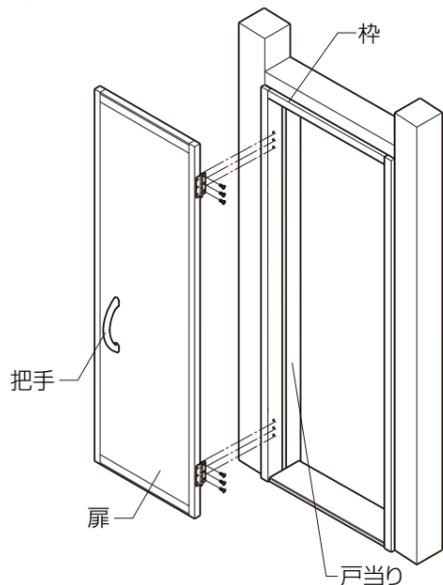
■取付け順序

1 枠の組立てと取付け

2 戸当りの取付け

3 把手の取付け

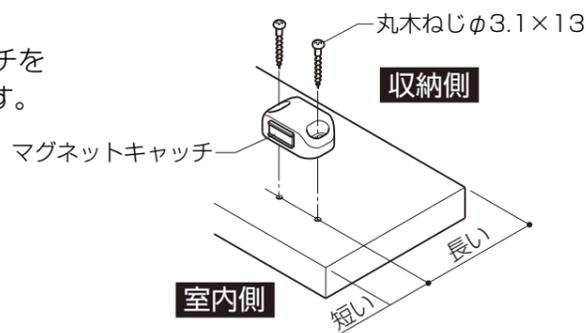
4 扉の吊込み



■取付け詳細

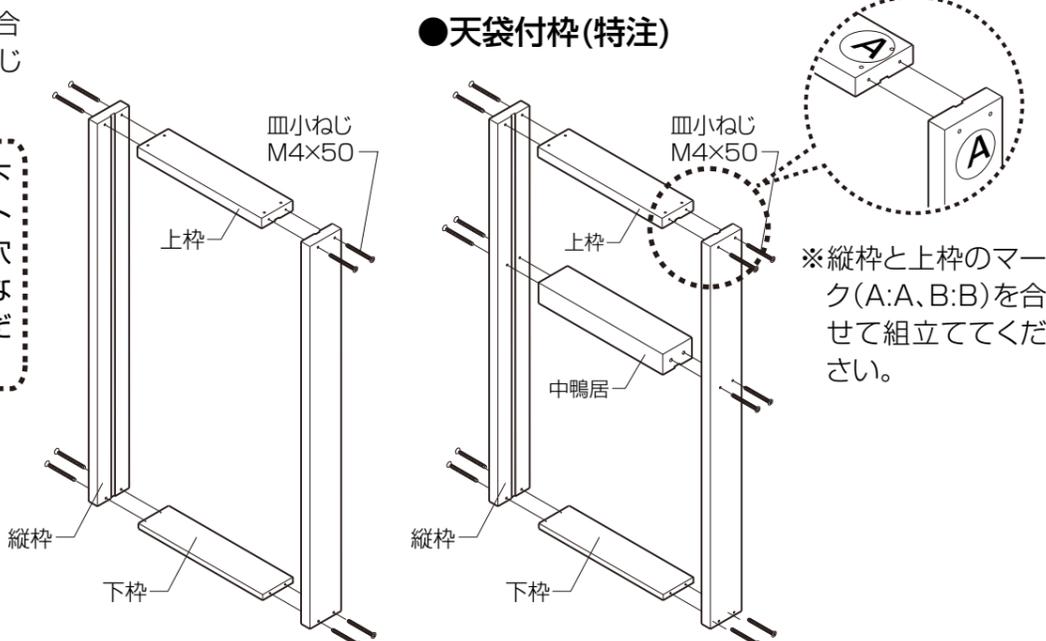
1 枠の組立てと取付け

①上枠・中鴨居・下枠に、マグネットキャッチを同梱の丸木ねじφ3.1×13で固定します。



②図のように、各部材を組合せ、同梱のねじ(皿小ねじM4×50)で固定します。

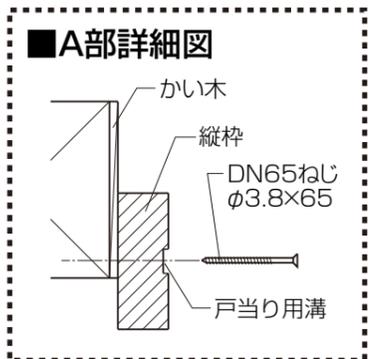
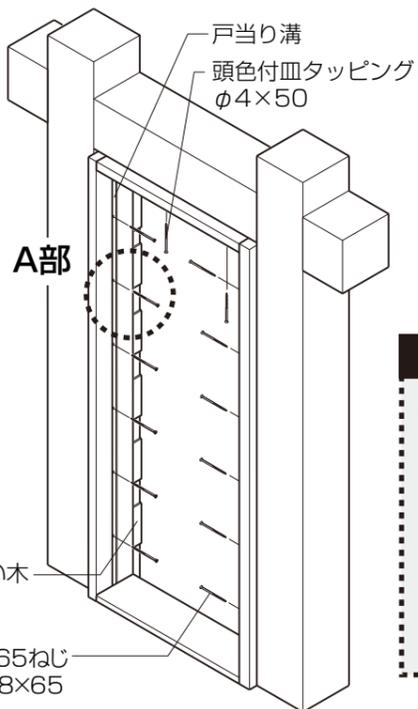
お願い
●縦枠の丁番取付け用下穴と上下枠のマグネットキャッチ取付け用下穴が手前側(室内側)になるように組立ててください。



●天袋付枠(特注)

※中鴨居のマグネットキャッチは下面のみとなります。

- ③ 枠を開口部に取付けます。
※ かい木を下穴部分に入れます。

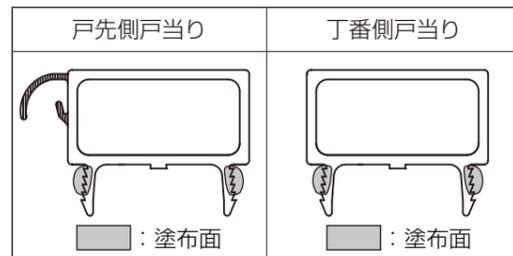


▲注意

● 枠の躯体取付けねじは、必ずすべての穴位置に止めてください。枠の固定が不十分な場合、扉が脱落するおそれがあります。

2戸当りの取付け

片開きの場合は、戸先側と丁番側で戸当り形状が異なります。事前に確認してから取付けしてください。



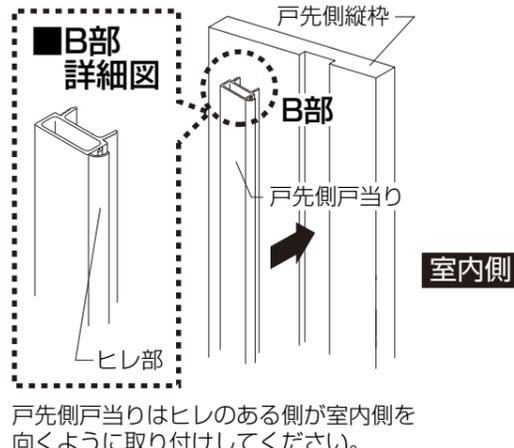
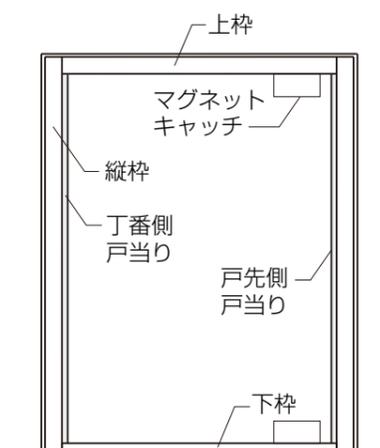
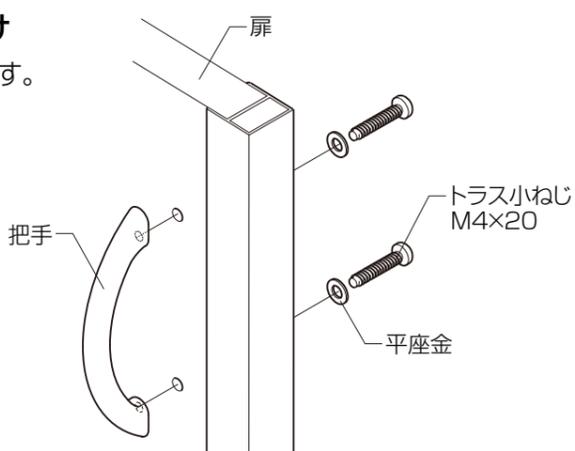
- 戸当りの寸法を合わせて切断してください。
- 戸当りの足の外側(リブのある面)に接着剤(現場手配)をつけ、固定してください(塗布面は上図参照)。接着剤(現場手配)がはみ出した場合は必ずふきとってください。

お願い

※ 戸当りはハンマーなどで直接たたき込まないでください。

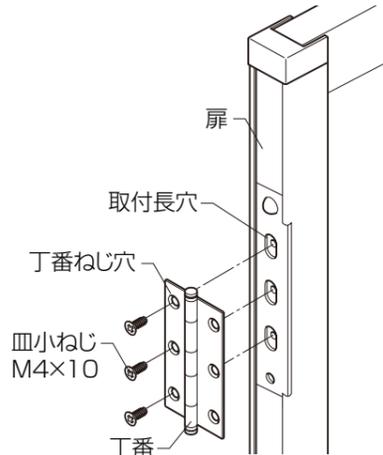
3把手の取付け

- 把手を取付けます。



4扉の吊込み

- 扉に丁番を取付けます。
※ ねじが曲がらないように、必ず手回しで取付けてください。ねじが曲がると、扉が固定できなくなりますのでご注意ください。
※ 丁番は上下・左右とも共通です。
- 扉を枠に吊込みます。枠に丁番を木ねじ(皿木ねじ2.7×16)で取付けます。
※ ねじが曲がらないように、又、から回りしないように必ず手回しで取付けてください。



お願い

※ 扉の取付長穴と丁番ねじ穴の中心を揃えて丁番を取付けて下さい。

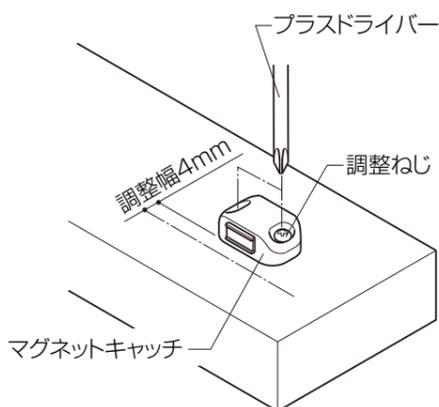
▲注意

● 丁番固定用ねじは、ガタツキがないように固定してください。固定ねじの締め忘れ・ゆるみなどは、扉の脱落の原因となります。

■建付け調整

■マグネットキャッチの調整

- マグネットキャッチが扉をキャッチしない場合、プラスドライバーで調整ねじをゆるめて、マグネットを前後させてください。

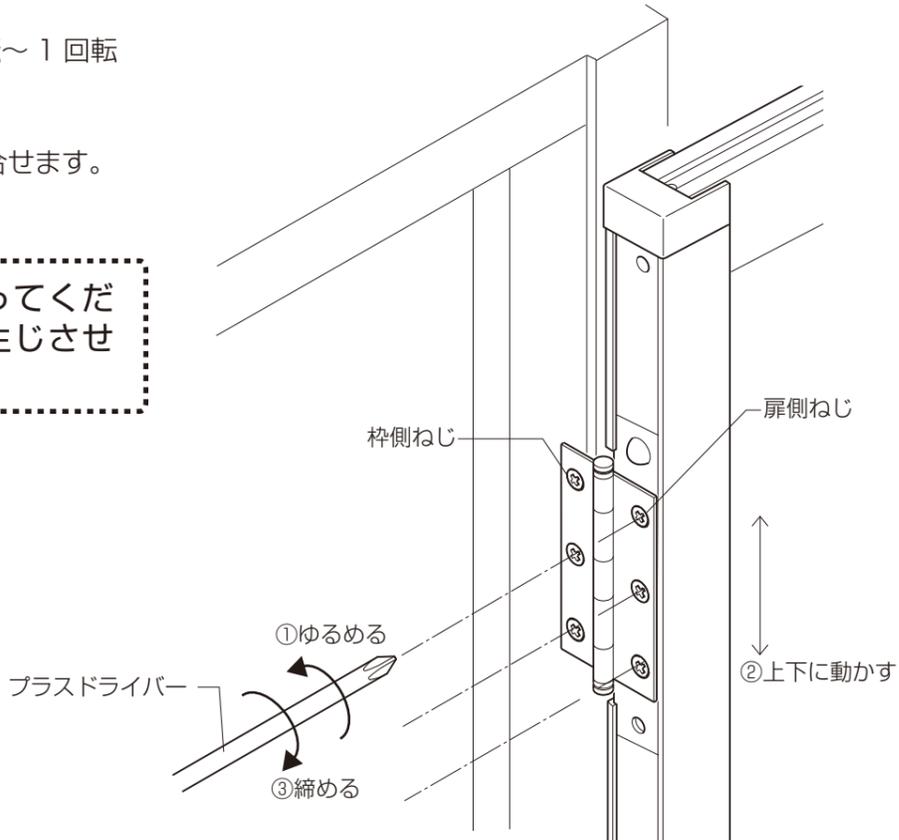


■上下の建付け調整

- 扉側の丁番を止めているねじを半回転～1回転回しゆるめます。
※ 枠側のねじはゆるめません。
- 扉を手で上下に動かし 適した高さに合せます。
- ゆるめたねじをすべて締めます。

お願い

※ 調整は床に敷物を敷いて行ってください。扉が床に当りキズを生じさせるおそれがあります。



■襖紙(シート)の張り方・張替え方

■現地張りタイプの場合

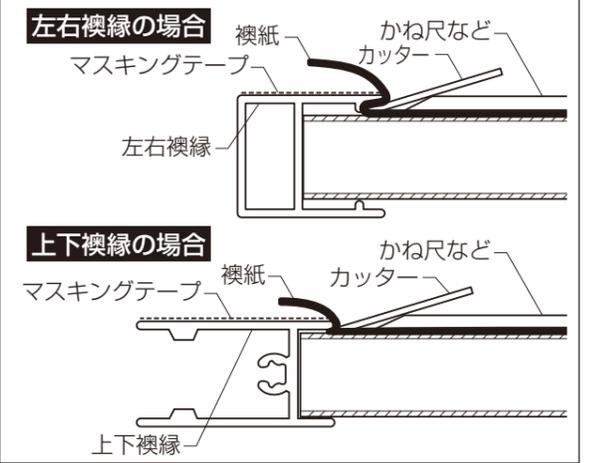
※現場手配した襖紙を張った場合は、次回の張替え時から、上に張増しすることができます。

- ①扉を枠から外します。
- ②把手を取外します。
- ③襖縁を養生するためマスキングテープを襖縁に張ってください。
- ④新しい襖紙を張ります。
 - 新しい襖紙を、上下・左右共に襖縁より10mmほど大きく裁断します。(予備切断)
- ⑤扉に襖紙を澱粉糊(糊付き紙の場合は水)で張ります。
 - 位置を確認して扉に張付けます。しわが入った所は、もう一度はがして張りなおしてください。次に押えハケか、乾いたタオルで中央から上下左右へ空気を押出すように軽くこすってください。多少のしわやたるみは乾燥すれば直ります。
- ⑥襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。(本切断)
 - 襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などをガイドにしてカッターで切断してください。その際、下地をキズ付けしないでください。キズが付くと襖縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。(図1)
- ⑦襖紙の切り代をヘラなどで襖縁の内側に押し込んでください。(図2)
- ⑧扉を吊込んで把手を取付けてください。

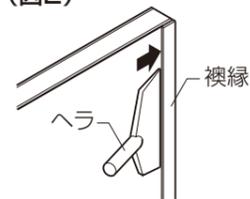
●お願い●

- 片面をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。
- 両面現地張りタイプの場合は、両面とも同じ襖紙を張ってください。

■和襖の場合(図1)



(図2)

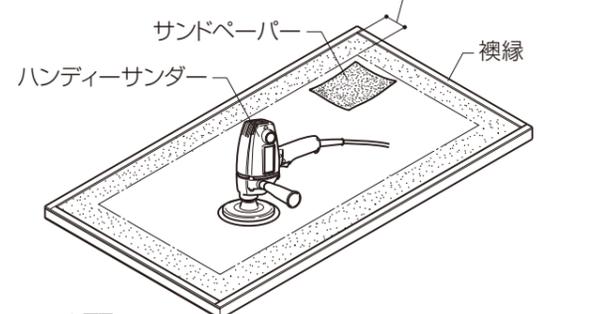


■既製襖タイプの場合

※襖柄シートですので、張替えは不要です。破損などで張替えが必要な場合は、市販の襖紙での対応をおすすめします。

- ①扉を枠から外します。
- ②把手を取外します。
- ③襖縁を養生するため、マスキングテープを2枚重ねて張ってください。
- ④糊の密着性を高めるため、襖柄シートのコーティング層と着色層をはくりします。
 - 襖縁の際からサンドペーパー(手作業)で、襖縁にキズを付けないようにして着色層まではくりします。(幅15mm~20mmで行ってください。)
 - ハンディーサンダー等で襖柄シート全体のはくりをします。(図3) サンドペーパーは100番~180番程度のものを使用してください。
- はくりは着色層がなくなり、襖柄シート基材の紙が出てくるまで行います。襖基材のペーパーハニカム(ダンボール)まではくりしないでください。
- ⑤襖表面に穴があいた場合は、周囲をマスキングテープで養生し、穴うめ下地パテで基材(ペーパーハニカム)内部まですき間なく充てんし、平らにしてください。
- ⑥新しい襖紙を張ります。
 - 新しい襖紙を上下・左右共に襖縁より10mmほど大きく裁断します。(予備切断)
 - 市販の澱粉糊を襖全体に塗布してください。(糊は「ルーアマイルド」(ヤヨイ化学)をおすすめします。)
 - 水との希釈要領などについては説明書に従ってください。
 - 張りはじめに襖の柄が曲がらないようにしてください。又、張りはじめに襖紙がよれると襖紙に負荷がかかり、はがれやすくなりますので慎重に行ってください。
 - ヘラを使い、余分な空気・糊を外に出して襖紙のしわを取除いてください。
 - 襖紙の密着をよくするため、全体をまんべんなく押えます。
- ⑦襖縁に合わせて襖紙をカッターなどで切断します。(本切断)
 - 襖縁の内側いっぱいまで襖紙を折返し、かね尺などをガイドにしてカッターで切断してください。
 - その際、下地をキズ付けしないでください。キズが付くと襖縁がはずれて使用できなくなるおそれがあります。(図1)
- ⑧襖紙の切り代をヘラなどで襖縁の内側に押し込んでください。(図2)
- ⑨扉を吊込んで把手を取付けてください。

(図3)



●お願い●

- 片面をクロス張りにしないでください。ソリが生じます。

■納まり図

在来工法用

